



## 2025年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年12月27日

上場会社名 株式会社アダストリア 上場取引所 東  
 コード番号 2685 URL <https://www.adastria.co.jp>  
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 木村 治  
 問合せ先責任者(役職名) 上席執行役員管理本部長 (氏名) 岩越 逸郎 (TEL) 03-5466-2060  
 配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 決算説明会開催の有無 : 有 (投資家向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 2025年2月期第3四半期の連結業績(2024年3月1日~2024年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年2月期第3四半期	220,089	8.3	14,770	△9.4	14,967	△10.4	9,907	△14.2
2024年2月期第3四半期	203,252	14.8	16,306	46.0	16,708	41.5	11,541	51.5

(注) 包括利益 2025年2月期第3四半期 9,405百万円(△24.4%) 2024年2月期第3四半期 12,434百万円(47.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年2月期第3四半期	215.71	—
2024年2月期第3四半期	254.10	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年2月期第3四半期	146,276	76,799	52.4
2024年2月期	127,915	71,581	54.8

(参考) 自己資本 2025年2月期第3四半期 76,700百万円 2024年2月期 70,143百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年2月期	—	35.00	—	50.00	85.00
2025年2月期	—	35.00	—		
2025年2月期(予想)				55.00	90.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2025年2月期の連結業績予想(2024年3月1日~2025年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	290,000	5.2	19,000	5.5	19,000	3.3	12,700	△6.0	280.48

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有  
 新規 3社 (社名) 株式会社アンドエスティ、株式会社トゥデイズスペシャル、除外 一社 (社名)  
 ADASTRIA PHILIPPINES INC.

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年2月期3Q	48,800,000株	2024年2月期	48,800,000株
② 期末自己株式数	2025年2月期3Q	2,506,309株	2024年2月期	3,520,769株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2025年2月期3Q	45,927,120株	2024年2月期3Q	45,420,607株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	8
(四半期連結貸借対照表関係)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等)	9
(企業結合等関係)	10
3. 補足情報	11
(1) ブランド・地域別売上高の状況	11
(2) 商品部門別売上高の状況	11
(3) 店舗出退店等の状況	12

## 1. 経営成績等の概況

## (1) 当四半期の経営成績の概況

## 連結業績

		2024年2月期 第3四半期 連結累計期間 (2023年3月1日から 2023年11月30日まで)	2025年2月期 第3四半期 連結累計期間 (2024年3月1日から 2024年11月30日まで)	増減	増減率
売上高	(百万円)	203,252	220,089	16,837	8.3%
営業利益	(百万円)	16,306	14,770	△1,536	△9.4%
経常利益	(百万円)	16,708	14,967	△1,741	△10.4%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	(百万円)	11,541	9,907	△1,634	△14.2%

当第3四半期連結累計期間においては、企業収益や雇用・所得環境が改善する中で、国内景気の緩やかな回復が見られました。また、昨年から続くインバウンド需要や賃上げが国内需要の支えとなり、消費意欲は底堅く推移しました。一方、円安の恒常化、少子高齢化と労働力不足、ロシア・ウクライナ情勢や中東情勢の長期化など経済の先行きは不透明な状況が続き、猛暑や大雨などの異常気象も見られました。

このような情勢の中、当社グループは中期経営計画において以下の成長戦略を策定し、着実に推進しております。

成長戦略Ⅰ マルチブランド、カテゴリー	ブランドの役割に応じたグルーピングによる収益改善と成長の両立
成長戦略Ⅱ デジタルの顧客接点、サービス	自社ECの成長加速と楽しいコミュニティ化
成長戦略Ⅲ グローカル	中国大陸でのモデル展開と東南アジア開拓
成長戦略Ⅳ 新規事業	飲食事業確立と新たな魅力の獲得

当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高が2,200億89百万円（前年同期比8.3%増）、営業利益が147億70百万円（前年同期比9.4%減）、経常利益が149億67百万円（前年同期比10.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益が99億7百万円（前年同期比14.2%減）となりました。

アパレル・雑貨関連事業の国内売上高につきましては、3月の低気温や夏場の台風などの天候要因の影響がありました。特に10月は想定を上回る残暑が続きましたが、全体を通じて外出需要やカジュアルファッション消費が底堅く推移したことに加え、トレンドを捉えた商品展開やヒット商品の育成、TVCMやポイント還元などのプロモーションが奏功し、前年同期比7.9%の増収となりました。7月から連結開始した株式会社トゥデイズスペシャルも増収に寄与しています。

デジタル戦略として、自社ECとリアル店舗を連動させたプロモーション、企業や人気キャラクターとのコラボ商品などの集客施策を継続的に行ったことで、自社EC/ポイント制度の会員数は前期末比170万人増の1,920万人に伸長しました。なお、10月に自社ECの名称を「ドットエスティ」から「and ST」に変更しております。

海外売上高（円換算）につきましては、中国大陸では不動産不況や消費低迷などの影響で、第3四半期3ヶ月間では減収となったものの、ECの好調などもあり、第3四半期累計期間では前年同期比2.6%の増収を確保しました。香港と台湾ではマルチブランド戦略の進展や新規出店により、それぞれ16.6%、19.5%の増収となりました。米国では市況全体の冷え込みによる卸売事業の不振が続いており、2.2%の減収となりました。また、前第2四半期から事業を開始したタイは当第3四半期に2号店を開店するなど58.9%の増収となり、海外事業全体では8.5%の増収となりました。

その他（飲食事業）の売上高につきましては、当第3四半期連結累計期間において飲食事業を行う株式会社ゼットンが決算日を変更したため10ヶ月決算となっており、15.2%の増収となりました。外食産業における原材料価格や光熱費の上昇、人手不足など厳しい経営環境が続きましたが、外食需要の増加や新規出店、海外事業の好調などが売上に寄与しました。

収益面につきましては、「適時・適価・適量」の商品提供による在庫コントロールと値引き販売の抑制、商品の高付加価値化、商品の価格見直しを継続し、売上総利益率の改善を図りましたが、円安による原価上昇や卸売事業を含むBtoB事業の構成比が上がったことによる押し下げなどにより、アパレル・雑貨関連事業の売上総利益率は前年同期から低下しました。その他（飲食事業）においても商品価格の見直しや原価低減などに取り組んだものの、売上総利益率が低下し、連結での売上総利益率は55.8%となり、前年同期比0.9ポイント悪化しました。

販売費及び一般管理費につきましては、従業員の処遇改善や飲食事業による人件費の増加、新店出店やM&Aによる減価償却費の増加などにより、販管費率は49.1%と前年同期比0.4ポイント上昇しました。

以上の結果、営業利益率は前年同期比1.3ポイント減の6.7%となり、営業利益は前年同期比9.4%の減益となりました。

また、為替差益59百万円を営業外収益に、店舗の減損損失65百万円を特別損失に計上しました。

セグメントごとの経営成績は次の通りです。

#### ①アパレル・雑貨関連事業

上記の状況の結果、売上高は2,085億88百万円（前年同期比7.9%増）、セグメント利益は153億82百万円（前年同期比7.2%減）となりました。

店舗展開につきましては、株式会社トゥデイズスペシャルの連結子会社化により、国内において30店舗増加したほか、82店舗の出店（内、海外15店舗）、27店舗の退店（内、海外7店舗）の結果、当第3四半期連結累計期間末における店舗数は、1,577店舗（内、海外130店舗）となりました。

#### ②その他（飲食事業）

その他（飲食事業）につきましては、売上高は115億56百万円（前年同期比15.3%増）、セグメント損失は4億15百万円（前年同期はセグメント利益1億25百万円）となりました。

店舗展開につきましては、7店舗の出店、3店舗の退店の結果、当第3四半期連結累計期間末における店舗数は、75店舗となりました。

### (2) 当四半期の財政状態の概況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて、183億61百万円増加して1,462億76百万円となりました。これは主に、現金及び預金が26億97百万円減少した一方で、受取手形及び売掛金が86億36百万円、棚卸資産が58億70百万円、のれんが21億7百万円それぞれ増加したことによるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べて、131億43百万円増加して694億77百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が30億55百万円、短期借入金60億円、未払金が24億22百万円それぞれ増加したことによるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べて、52億18百万円増加して767億99百万円となりました。これは主に、自己株式が18億89百万円（純資産は増加）、非支配株主持分が13億39百万円それぞれ減少した一方で、利益剰余金が59億86百万円増加したことによるものです。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年4月4日に公表いたしました通期の連結業績予想を変更しておりません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年11月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	23,371	20,673
受取手形及び売掛金	15,815	24,451
棚卸資産	26,839	32,709
その他	2,788	2,121
貸倒引当金	△83	△108
流動資産合計	68,731	79,847
固定資産		
有形固定資産		
店舗内装設備（純額）	6,778	7,491
その他（純額）	17,122	18,686
有形固定資産合計	23,901	26,178
無形固定資産		
のれん	1,109	3,216
その他	11,266	12,318
無形固定資産合計	12,376	15,534
投資その他の資産		
投資有価証券	768	695
敷金及び保証金	13,719	14,027
その他	8,733	10,252
貸倒引当金	△314	△258
投資その他の資産合計	22,906	24,716
固定資産合計	59,184	66,429
資産合計	127,915	146,276
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	14,013	17,068
電子記録債務	8,651	10,638
短期借入金	—	6,000
1年内返済予定の長期借入金	401	—
未払金	14,144	16,566
未払法人税等	3,667	3,564
賞与引当金	2,460	1,606
ポイント引当金	175	75
その他の引当金	477	359
その他	4,500	5,301
流動負債合計	48,491	61,181
固定負債		
長期借入金	504	—
引当金	172	434
その他	7,166	7,862
固定負債合計	7,842	8,296
負債合計	56,334	69,477

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年11月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,660	2,660
資本剰余金	7,213	6,262
利益剰余金	66,286	72,273
自己株式	△7,516	△5,627
株主資本合計	68,642	75,568
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	34	38
繰延ヘッジ損益	234	△10
為替換算調整勘定	1,231	1,105
その他の包括利益累計額合計	1,500	1,132
非支配株主持分	1,437	98
純資産合計	71,581	76,799
負債純資産合計	127,915	146,276

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2023年3月1日 至2023年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2024年3月1日 至2024年11月30日)
売上高	203,252	220,089
売上原価	87,927	97,191
売上総利益	115,324	122,897
販売費及び一般管理費	99,017	108,127
営業利益	16,306	14,770
営業外収益		
為替差益	303	59
受取保険金	101	1
その他	270	381
営業外収益合計	675	442
営業外費用		
支払利息	187	190
その他	85	54
営業外費用合計	273	245
経常利益	16,708	14,967
特別損失		
減損損失	128	65
投資有価証券売却損	—	59
特別損失合計	128	124
税金等調整前四半期純利益	16,580	14,842
法人税、住民税及び事業税	5,424	5,692
法人税等調整額	△463	△622
法人税等合計	4,960	5,069
四半期純利益	11,619	9,772
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	78	△134
親会社株主に帰属する四半期純利益	11,541	9,907

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)
四半期純利益	11,619	9,772
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	47	3
繰延ヘッジ損益	179	△245
為替換算調整勘定	587	△126
その他の包括利益合計	814	△367
四半期包括利益	12,434	9,405
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	12,263	9,546
非支配株主に係る四半期包括利益	170	△140

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結の範囲の重要な変更)

当第3四半期連結会計期間において、新たに設立した株式会社アンドエスティを連結の範囲に含めております。

なお、株式会社トゥデイズスペシャルは2024年7月1日の株式取得に伴い、第2四半期連結会計期間より連結子会社となりました。

また、第1四半期連結会計期間において、新たに設立したADASTRIA PHILIPPINES INC. を連結の範囲に含めております。

(連結子会社の事業年度等に関する事項の変更)

当第3四半期連結会計期間において、連結子会社である株式会社ゼットンは、決算日を1月31日から2月末日に変更し、連結決算日と同一となっております。なお、当該子会社の2024年2月の1ヶ月分の損益については連結損益計算書を通して調整する方法を採用しており、当第3四半期連結累計期間における会計期間は10ヶ月となっております。

(四半期連結貸借対照表関係)

(偶発債務)

当社の連結子会社であるZETTON, INC. (米国)は、2021年3月に制定された、米国救済計画法(American Rescue Plan Act of 2021)に基づくレストラン活性化基金(Restaurant Revitalization Fund: RRF)設立に伴い2021年5月に受給した820万米ドルに関して、米国中小企業庁(The U.S. Small Business Administration)より、受給資格の正当性について調査を受けております。

当社グループは、受給資格の正当性について、引き続き当局に対して説明を続けていくものの、今後の進捗によっては当社グループの業績に影響を与える可能性があります。現時点において当社グループの業績への影響を見積もることは困難であります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)
減価償却費	6,919百万円	8,274百万円
のれんの償却額	168百万円	274百万円

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	アパレル・雑貨 関連事業				
売上高					
外部顧客への売上高	193,268	9,983	203,252	—	203,252
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1	35	37	△37	—
計	193,270	10,019	203,289	△37	203,252
セグメント利益	16,582	125	16,708	—	16,708

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飲食事業であります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引に係る未実現利益の調整であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と一致しております。

4. セグメント利益には、各報告セグメントに配分された全社費用を含んでおります。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

## Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	アパレル・雑貨 関連事業				
売上高					
外部顧客への売上高	208,587	11,501	220,089	—	220,089
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	55	55	△55	—
計	208,588	11,556	220,145	△55	220,089
セグメント利益又は 損失(△)	15,382	△415	14,967	—	14,967

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飲食事業であります。  
 2. セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント間取引に係る未実現利益の調整であります。  
 3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の経常利益と一致しております。  
 4. セグメント利益又は損失には、各報告セグメントに配分された全社費用を含んでおります。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

(企業結合に係る暫定的な処理の確定)

2024年7月1日に行われた株式会社トゥデイズスペシャルとの企業結合について、第2四半期連結会計期間において暫定的な会計処理を行ってりましたが、当第3四半期連結会計期間に確定しております。

この結果、暫定的に算定されたのれんの金額2,853百万円は、会計処理の確定により471百万円減少し、2,381百万円となっております。また、のれんの減少は、無形固定資産のその他が721百万円、繰延税金負債が249百万円それぞれ増加したことによるものであります。

## 3. 補足情報

## (1) ブランド・地域別売上高の状況

ブランド・地域		当第3四半期連結累計期間		前年同期比増減率 (%)
		売上高(百万円)	構成比(%)	
	グローバルワーク	39,683	18.0	3.9
	ニコアンド	26,547	12.1	7.6
	スタディオクリップ	17,348	7.9	4.1
	ローリーズファーム	17,322	7.9	3.9
	レブシム	11,223	5.1	11.0
	ラコレ	9,559	4.3	21.2
	ジーナシス	8,738	4.0	△2.9
	ベイフロー	8,449	3.8	6.8
	その他	31,597	14.4	14.1
当社 計		170,470	77.5	7.3
株式会社BUZZWIT		9,258	4.2	1.0
株式会社エレメントルール		9,539	4.3	14.6
その他連結子会社		1,664	0.8	132.9
国内合計		190,934	86.8	7.9
	中国大陸	3,089	1.4	2.6
	香港	3,492	1.6	16.6
	台湾	5,236	2.4	19.5
	タイ	233	0.1	58.9
	米国	5,601	2.5	△2.2
海外合計		17,653	8.0	8.5
アパレル・雑貨関連事業合計		208,587	94.8	7.9
株式会社ゼットン(注)3		11,501	5.2	17.7
その他(飲食事業)合計(注)4		11,501	5.2	15.2
グループ合計		220,089	100.0	8.3

- (注) 1. 店舗を運営管理しているブランド営業部・地域別に集計しております。  
2. 上記の金額は外部顧客に対するもので、連結会社相互間の内部売上高は含まれておりません。  
3. 株式会社ゼットンの売上高は、同社の連結子会社であるZETTON, INC.を含めて集計しております。  
4. その他(飲食事業)合計の前年同期比増減率は、2024年2月2日付で清算終了しております株式会社ADASTRIA eat Creationsの前年同期の売上高を含めて集計しております。

## (2) 商品部門別売上高の状況

商品部門	当第3四半期連結累計期間		前年同期比増減率 (%)
	売上高(百万円)	構成比(%)	
メンズ(ボトムス・トップス)	35,116	16.0	8.9
レディース(ボトムス・トップス)	130,952	59.5	6.4
雑貨・その他	54,020	24.5	12.7
合計	220,089	100.0	8.3

- (注) 1. 雑貨・その他は、契約負債の計上額やポイント引当金繰入額等が含まれております。  
2. 上記の金額は外部顧客に対するもので、連結会社相互間の内部売上高は含まれておりません。

## (3) 店舗出退店等の状況

ブランド・地域	店 舗 数							当第3四半期 連結累計期間末
	前連結 会計年度末	当第3四半期連結累計期間					増 減	
		合併等 (注)3	出 店	変 更	退 店			
グローバルワーク	214	—	4	—	—	4	218	
ニコアンド	141	—	6	—	△2	4	145	
スタディオクリップ	179	—	10	—	△2	8	187	
ローリーズファーム	126	—	1	—	△1	—	126	
レプシム	115	—	1	—	△1	—	115	
ラコレ	78	—	12	—	△1	11	89	
ジーナシス	68	—	1	—	—	1	69	
バイフロー	62	—	2	—	—	2	64	
その他	259	6	23	—	△4	25	284	
当社 計	1,242	6	60	—	△11	55	1,297	
株式会社BUZZWIT	31	—	1	—	△2	△1	30	
株式会社エレメントルール	83	—	5	—	△5	—	83	
その他連結子会社	14	24	1	—	△2	23	37	
国内合計	1,370	30	67	—	△20	77	1,447	
中国大陸	15	—	1	—	△3	△2	13	
香港	23	—	7	—	△1	6	29	
台湾	72	—	5	—	△2	3	75	
タイ	2	—	1	—	—	1	3	
米国	10	—	1	—	△1	—	10	
海外合計	122	—	15	—	△7	8	130	
アパレル・雑貨関連事業合計	1,492	30	82	—	△27	85	1,577	
株式会社ゼットン(注)4	71	—	7	—	△3	4	75	
その他(飲食事業)合計	71	—	7	—	△3	4	75	
グループ合計	1,563	30	89	—	△30	89	1,652	

- (注) 1. 店舗を運営管理しているブランド営業部・地域別に集計しております。  
2. 店舗数は、他社WEBストア、自社WEBストアを含めて集計しております。  
3. 2024年3月1日付で、当社を存続会社、株式会社Gate Winを消滅会社とする吸収合併を実施し、それに伴う変更を記載しております。  
また、株式会社トゥデイズスペシャルの連結子会社化に伴う増加店舗数を記載しております。  
4. 株式会社ゼットンの店舗数は、同社の連結子会社であるZETTON, INC.を含めて集計しております。